



三国中学校だより

【校訓】誠心 自主 創造

— 主体的に学び、協働してよりよい人生と

社会を創る生徒の育成— 合言葉:進取果敢



小郡市立三国中学校

第 18 号

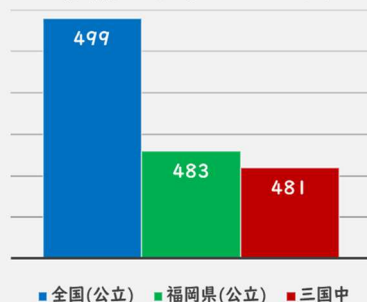
令和8年9月18日発行

文責 校長 米倉佳美

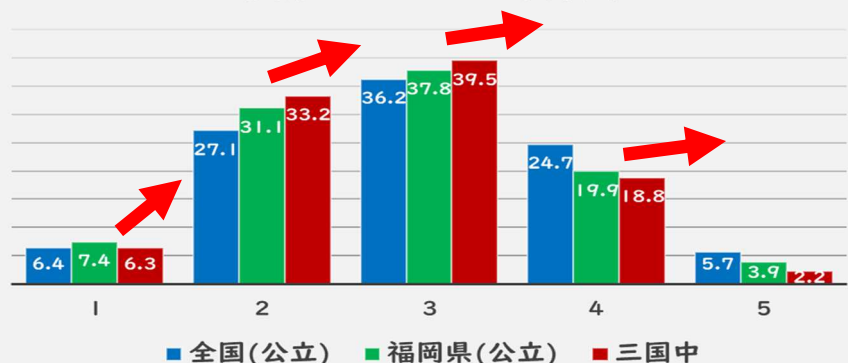
全国学力・学習状況調査の結果②【全国学力調査について】

英語

〈英語 平均IRTスコア〉



〈英語 IRTバンド集計値〉



【IRTについて】

- ◇IRTとは、国際的な学力調査（PISA、TIMSS など）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFL など）で採用されているテスト理論です。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じものさし（尺度）で比較できるというものです。
- ◇IRTスコアとは、IRTに基づいて各設問の正誤パターン状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。
- ◇IRTバンドとは、IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。
- ◇IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRT バンド2・3の割合が全国・福岡県より高く、4・5の割合が低いことから、**学び方によっては、上位層へ伸びていく可能性を秘めている**と考えられます。

今回は、全員が共通で取り組んだ問題が9問でした。その9問の中で正答率が全国・福岡県と同じくらいだったのが、インターネットの使用に関する英文を読んで、自分の考えとその理由を書く問題でした（思考・判断・表現力「書くこと」全国－1.2 福岡県＋2.1）。

一方で、全国・福岡県ともに平均正答率を下回ったのは、住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する問題（思考・判断・表現力「聞くこと」全国－13.4 福岡県－9.3）、電話でのやり取りの中で遊ぶ約束をしている留学生に明日の天気を伝える問題（思考・判断・表現力「話すこと」[発表]全国－8.1 福岡県－3.3）でした。

英語については、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」の4技能をバランスよく身に付けていってほしいと思います。「Rome wasn't built in a day ローマは一日にして成らず」です。コツコツと学びを積み上げていきましょう。

〈問題文〉あなたは、「住みやすいまちづくり」についての意見交流会で、友達のたけるの話を聞くとこです。話を聞いて、たけるが最も伝えたいことを、〈解答欄〉の1から4までの中から1つ選びなさい。

【たけるのスピーチ】

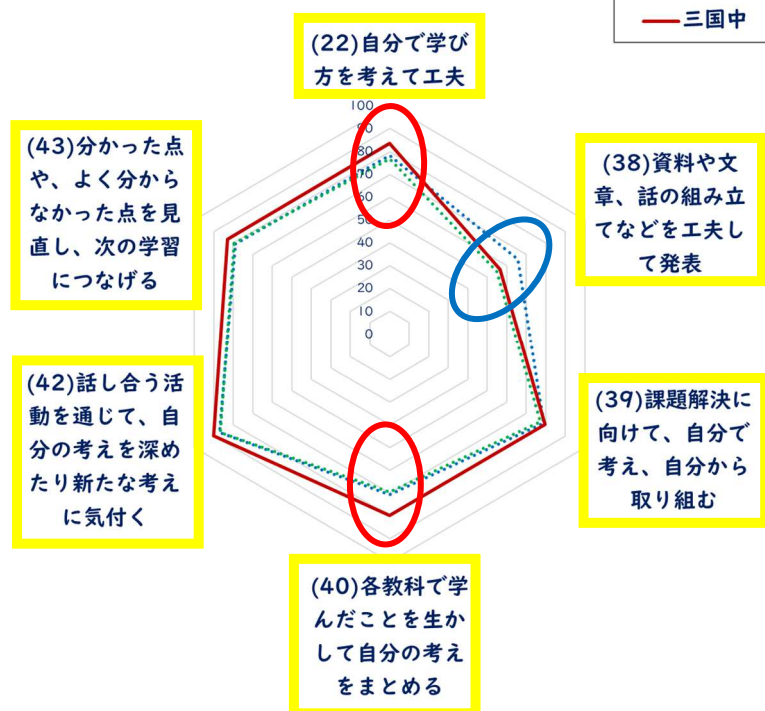
＜解答欄＞



- ☐ 1 Many people from different countries are living in our city.
- ☐ 2 We need to help people from abroad with many different languages.
- ☐ 3 Our city improved the website for people from abroad.
- ☐ 4 People from abroad can get useful information from the website.

全国学力・学習状況調査の結果③ 【質問紙調査について】

学びを調整する力



質問紙調査では、関心や意欲、授業での取り組み方や学習方法などについて質問がなされました。その中から、福岡県が育成を目指す資質・能力の一つである「学びに向かう力、人間性等」に関する4つの項目に着目してみます。

グラフは肯定的解答を比較したものです。

「(22)自分で学び方を考えて工夫」の項目、「(40)各教科で学んだことを生かして自分の考えをまとめる」の項目では、全国・福岡県ともに+5以上でした。

一方で、「(38)資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表」の項目では、全国-8.9 福岡県+1.7、「(10)将来の夢や目標を持っている」の項目では、全国-4.3 福岡県-4.7でした。

これらは、子どもたちが最初からできるものではなく、教師が意図的に指導することによって身に付くことが多いとされています。三国中学校では、このことを踏まえ、自分の「問い」をもち、主体的に学び続ける子どもたちを育てていきたいと思っています。人生において学びを楽しむことができるような土台を小中9年間の学びで築き上げるとともに授業づくりにも一層注力したいと考えています。

※「学びを調整する力」とは、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤することであり、学習について自らをやる気にさせることや、他者との関わりの中で自らの学習を望ましい方向に向かわせていくことなどが含まれるといわれています。

粘り強く挑む力(10)(65)
自己有用感・自己効力感(8)(9)
協働する力(11)(14)(16)(33)

